

**サギタリウス・チャレンジ チャレンジ部門
企画実施報告書**

タイトル	京都産業大学と世界をむすぶグローバル化環境整備事業一	
実施日	2016 年 4 月 1 日 (金) ~ 2017 年 2 月 28 日 (火)	
代表者	学生証番号	氏 名
	331111	オリバレス ラファエラ ヨシイ
企画概要	<p>留学生と京都産業大学生、留学生と教員、留学生と職員、京都産業大学生同士を結び、最終的には京都産業大学と世界を結ぶ。様々な国、文化、宗教、言語の壁を越え、型破りな発想を生み出す、グローバルキャンパスの実現を果たすことが企画の目的である、その一環で、様々な海外体験を持つ産大生同士を結ぶため、留学報告会を開催し、海外経験のある学生が海外に興味のある学生に対して自分の経験を伝える場を設け、参加者と交流することで留学機運を高めることに努めた。また、留学生と産大生を結ぶため、留学生向けガイドブックを作成し、留学生がより快適に留学生生活を過ごすことができるようにサポートする。さらに、クラブ・サークルを紹介し、課外活動を通して留学生と産大生の交流を活性化させる。そして、京都産業大学と世界をむすぶため、12月に異文化交流フェスタを開催する。ステージ発表や海外料理の模擬店、外国文化を紹介するブース展示、海外体験を持つ学生にオリジナリティあふれる作品を募って開催sオリジナリティしたフォトコンテスト、多様化する日本をテーマに扱った映画の上映会などの企画を通して、異文化交流を促進する。</p>	
活動状況	<p>【留学報告会開催：済み】 10月12日3限グローバルコモンズにて開催。参加者10名、発表者7名。ポスターセッション形式で発表。報告会終了後に懇親会開催。</p> <p>【ガイドブック作成/クラブ・サークル紹介】 英語版完成中国語添削中、現在やさしい日本語への翻訳作業を進めている。紙の冊子ではなくアプリケーションを開発し、留学生がいつでもアクセスできるようにする。3月完成に向けて作業に励んでいる。バディの学生と協力して留学生が希望するクラブ・サークルの見学に同行。今後、留学生を受け入れているクラブ・サークルの情報をまとめた冊子を作成予定。</p> <p>【異文化交流フェスタ】 12月21日(水)グローバルコモンズ、ピロティ、12号館前スペースにて開催。外国料理模擬店（ドイツのじゃがいも料理、ブラジルの南瓜のデザート、フィンランドのロールキャベツを使った家庭料理、南米の茶葉を使ったお茶、中国、台湾の水餃子の計五品のフード販売） フォトコンテストは異文化交流フェスタ開催する以前から写真を募集し、一次選考では写真部によるテーマ「私だけの海外体験」に沿って入賞作品が選ばれた。入賞作品は異文化交流フェスタの事前一週間5号館にて展示、会場投票を実施。二次選考ではKnitメンバー、国際交流センター職員、学生部職員、外国語学部事務室職員そしてグローバルコモンズスタッフによる選定が行われ、グランプリ、準グランプリ、優良賞が選ばれた。異文化交流フェスタ当日に受賞者を発表した。入賞作品はフォトブックにまとめ国際交流センター、グローバルコモンズに展示予定である。ステージ発表は公認サークルのピュアボイス、さざんかの協力のもと、最後は貸し出ししていただいた民族衣装を身にまとったファッションショーも実施。 異文化展示ブースでは留学経験者、海外経験者などの協力のもと、ドイツ、ロシア、イタリア、フランスなどの国のカルチャーが分かる小物、雑誌、写真などの展示と展示物の紹介を実施。映画は日本で暮らすハーフを題材に取り扱ったHAFUを上映、参加者による視聴前、後のディスカッションを行い理解を深めた。</p>	

<p>考 察</p>	<p>【留学報告会】 国際交流センターが毎学期開催している留学祭はアドバイザーが交換留学や派遣留学で留学した学生に限られている。そのため、参加者は実際に留学したいという意思がある程度固まっている学生が多いように思われる。また、国際交流センターからはアドバイザーに対して特にこのようなことに重点を置いて話してほしいという指定はないため、参加者から受ける質問に答えるだけのことが多いように思われる。この度開催した留学報告会では、交換留学に限らず、短期留学、海外インターンシップや海外ボランティアに参加した学生に報告を依頼した。ポスターセッション形式で報告することで、一つの国や地域に限らず、様々な海外経験に触れてもらえるように工夫した。事前にポスターに盛り込んで欲しい内容を指定することで、留学中の体験をより具体的に聞き出すことができた。アンケートを実施した結果、「他の人の海外経験を聞いて良かった」「気軽に質問してくれるので楽しかった」という回答が得られ、イベント満足度も高かったことがわかる。</p> <p>【ガイドブック作成/クラブ・サークル紹介】 ガイドブック作成にあたり、留学生及び国際交流センター職員にヒヤリング調査を実施した。その結果、日本語をまったく勉強せずに留学している学生だけでなく、来日以前に母国で日本語をある程度学習してきた留学生も日本語で情報を入手するのが困難であることがわかった。そのため、国際交流センター職員を頼らざるをえず、留学生の数が増えれば職員の負担も増えることがわかった。日本語を勉強したことのない留学生はほとんどが英語に堪能だが、日本語を勉強している学生の中には英語を得意としない人も若干名存在する。そのため、英語に限らず、やさしい日本語、そして中国語に翻訳されたガイドブック・クラブサークル紹介冊子が必要不可欠なのではないかと考える。</p> <p>【異文化交流フェスタ】 模擬店：昼休みの時間を狙ってオープンする予定だったが、事前仕込みの遅れにより15分程度押しで販売開始。売れ行きはよく、複数購入してくれる学生が多数いた。異文化交流フェスタの実施を事前に知らなかった学生も、当日のステージ発表等を見て、あるいは配布したパンフレットを見て参加してくれたため、開催場所、時間などは良かったのではないと思う。 ステージ発表：模擬店周辺の人の流れを受け、ステージの開始とともに観覧者は増加。さざんかの発表の時にはたくさんの学生が集まってくれた。 展示ブース：集客はそこそこだったが、グローバルcommonsの利用者などが興味を持って立ち寄ってくれた。 映画：上映時間の都合などにより、途中参加者、途中離脱者などもいた。参加者のアンケートによると普段考えることないテーマについて考える良い機会となったという意見が寄せられた。</p>
<p>所 感</p>	<p>【留学報告会】 イベントを知った経緯がほぼ先生や友人に偏っており、チラシやpostの効果が薄かったようなのでより早い段階から準備し、長期的な宣伝計画をしていくべきだったと考える。加えて、学校のポスター掲載箇所の規定が厳しいので、今後同様の活動をする場合SNSをより有効に活用し、学生部への定期的なpost掲載の要求をすべきである。人目に付きやすい神山ホール前のスペース等で開催することで、外国語学部以外の学生にも今後アプローチしていきたい。</p> <p>【ガイドブック作成/クラブ・サークル紹介】 情報を提供するだけでなく、今後、国際交流センター、ihouseアシスタント、バディ学生との連携を強化し、集めた情報を留学生がうまく活用できるようにサポートする必要がある。特に、クラブ・サークルに関しては、所属したい団体を選ぶだけでなく、代表者とコンタクトを取る必要があるためバディ学生などの協力が不可欠である。そのため、バディオリエンテーションの際にガイドブックの利用方法について留学生とバディが共に考える場を設ける必要があると考える。アプリケーションにすることで印刷コストが削減できたり、携帯しやすかったり、情報を更新しやすかったりするなどの利点が多いが、今後どのようにして引き継いでいくかが課題である。</p> <p>【異文化交流フェスタ】 事前の広報活動が不十分だった。Kni tメンバーで手分けしてチラシを配ったり、ポスターを掲示したり、POSTやFacebookを活用して情報を掲載してはいたものの、イベントの直前だけ力を入れるのではなく、もっと時間をかけてより広い範囲に情報を伝えるべきだったと感じる。模擬店の設備設置や、料理の仕込み等は事前に役割分担を振り当てていたが、当日の動きはもたついていたので、当日スタッフの数は余裕をもって集めるべき。良かった点は修一のミーティングは欠かさずに行い、各パートごとに企画を煮詰め、全体で提案、採用する形で進めていった点は良かったと思う。チームとして団結するためには全員でチームの趣旨、活動目標を確かめ合う機会が必要だったと思う。</p>